

CHIBA 赤十字 NOW

2022
Vol. 60



【特集】

救いを託されている 千葉県支部130年のあゆみ

昭和34年5月9日 江戸川水郷自然公園柴又競技場にて
【日本赤十字社関東山静支部連合災害救護演習】に参加する千葉支部救護班

発行所/日本赤十字社千葉県支部 〒260-8509 千葉市中央区千葉港5-7
TEL 043-241-7531 FAX 043-248-6812
<https://www.chiba.jrc.or.jp/>

 **日本赤十字社** 千葉県支部
Japanese Red Cross Society

赤十字活動へのご寄付はこちらから→



特集

おかげさまで
130周年

救いを託されている 千葉県支部130年のあゆみ

明治、大正、昭和、平成、そして令和…「人のいのちと健康・尊厳を守る」赤十字の活動はいつの時代も変わりません。今年、日本赤十字社千葉県支部は創立130周年を迎えました。激動と変貌の130年、当支部の活動を支えてくださった多くの県民の皆様、職員及び関係者一同、心からお礼申し上げます。

戦時救護から始まった活動は、災害救護、そして健康や安全のための活動へと広がっていきました。「苦しんでいる人を救いたい」という思いで、それぞれの時代の要請に応え、活動を続けてきた当支部の歴史を振り返ります。

1892(明治25)年 千葉県委員部創設

明治25年11月16日、日本赤十字社千葉県委員部が創設されました。



最初の支部社屋(明治36年竣工)

1895(明治28)年 日清戦争救護

救護班が陸軍用船にて患者護送の任に当たりました。

1898(明治31)年 看護婦養成を開始

救護看護婦を養成するため、県立千葉病院(現千葉大学付属病院)内に看護婦養成所を開設しました。



支部最初の看護婦養成所

1899(明治32)年～

県内各地で災害救護活動

天津町の暴風雨に伴う津波被害(明治32年)、銚子港外の漁船遭難(明治43年)、東葛飾郡・香取郡の水害(明治43年)などへの救護活動が記録されています。

1901(明治34)年

篤志看護婦人会 千葉支会を設立

日赤最初のボランティアグループである「日本赤十字社篤志看護婦人会」の千葉支会が設立されました。



篤志看護婦人会

1904(明治37)年～

日露戦争救護

傷病兵を收容して内地へ護送する病院船と各地の予備病院へ救護班2個班(54名)を派遣しました。



病院船「弘濟丸」内の様子

1923(大正12)年

関東大震災救護

千葉・佐倉・安房に救護所を設置し93名の救護員が従事したほか、東京にも救護班2個班を派遣しました。



芝公園に設置された救護テント

1925(大正14)年

富浦海浜学校を開校

全国初の虚弱児童のための小学校「富浦海浜学校」を開校し、この年173名の児童が入学しました。昭和24年に閉校となりました。



ラジオ体操をする子どもたち

● 1926(大正15)年 少年赤十字を創設

青少年赤十字の前身である「少年赤十字」が千葉県で創設され、5団1,100名が団員となりました。



本社総会に参加した少年赤十字団代表

● 1937~45(昭和12~20)年

日中戦争～ 太平洋戦争救護

病院船や国内外の病院などに、救護班16個班(676名)を派遣しました。



日赤本社を出発する戦時救護班

● 1948(昭和23)年 成田赤十字病院を開設

日本医療団成田地方病院が日本赤十字社に移管され、成田赤十字病院として開設しました。昭和29年には現在地(成田市飯田町)に新病院が開設され、成田不動尊前から移転しました。



移転当時の病院全景



診療風景

● 1948(昭和23)年～ 赤十字奉仕団の誕生

県内各地で相次いで、ボランティア組織である「赤十字奉仕団」が結成されました。



救護用乳児肌着を作る赤十字奉仕団

● 1952(昭和27)年 義肢製作所を設置

身体に障がいがある方々の義肢や装具を製作、修理するために、日本赤十字社唯一の義肢製作所が設置されました。



義肢の調整作業

● 1964(昭和39)年 血液事業を開始

当支部内に血液銀行が設置され、血液事業を開始しました。同年、「千葉県赤十字血液センター」に改称。

● 1978(昭和53)年 赤十字看護専門学校を開校

成田赤十字看護専門学校が開校されました。平成27年3月に閉校となるまでの間、1,104名の卒業生を送り出しました。



成田赤十字看護専門学校の校舎

● 1995(平成7)年 阪神・淡路大震災救護

神戸市へ救護班4個班を派遣(延べ19日間、114名)し、412名を診療しました。



被災地の状況を確認する救護班

● 2011(平成23)年 東日本大震災救護

発災直後から約半年間にわたり、医療救護班やDMAT、こころのケア班等182名を派遣しました。



水没により孤立した避難所へ向かう救護班

● 2020(令和2)年～ 新型コロナウイルス感染症への対応

流行初期から成田赤十字病院で重症患者を受け入れ、軽症者療養施設へ救護班を派遣するなど、診療を続けています。



ICUで治療にあたる医療スタッフ

130年にわたるあゆみに思いを馳せ、その歴史を受け継ぐと同時に未来を見つめ、これからもボランティアの皆様、ご支援いただいている皆様とともに赤十字活動の推進に努めてまいります。

今日も赤十字を支える ボランティア紹介

赤十字の活動は、「苦しんでいる人を救いたい」という赤十字の人道的使命に賛同する多くのボランティアによって支えられています。千葉県内では約6,000人の赤十字ボランティアが9つのグループ(奉仕団)に分かれ、地域のネットワークや専門技術・資格を活かして活躍しています。今回は、『安全奉仕団』と『看護奉仕団』をご紹介します！

千葉県赤十字安全奉仕団 — 1人でも多くの命を救う —

結成年月日 | 昭和48年4月1日

団員数 | 297名(令和4年10月末時点)

救急法、水上安全法等の指導員資格を持つメンバーで構成され、県内で開催される講習会で、受講者に一次救命処置や応急手当等を教える指導員として活動しています。身近な人を救うため、とっさの手当や日常生活での事故防止等、健康安全に関する知識・技術の普及と啓発を行っています。



安全奉仕団
(救急法指導員)
高橋 秀輝さん

●平成9年3月～
救急法指導員
●平成12年5月～
幼児安全法指導員

活動をはじめたきっかけは？

私は小学校で教員をしているのですが、先輩の教員がたまたま救急法指導員で、児童が怪我をした際に役立つ応急手当の方法を教えてくださいました。それがきっかけで、救急法を知り講習を受けました。

はじめは受講して満足していましたが、受講してから何年か経った頃、家族が倒れた際に何もできず、「もっと知識を深めて人を救助できるようになりたい」と思い、指導員資格を取得しました。それが25年前のことで、それ以来、仕事が休みの土日を中心に活動を続けています。



指導する上で、気を付けていることはありますか？

受講者目線で分かりやすい伝え方をするように心がけていますね。さらに、指導していると受講生に教えられることもあるので「一緒に学ぼう」という姿勢で活動しています。

活動をしていて嬉しかったことはありますか？

職場(小学校)で子どもが怪我をした際に応急手当ができたり、他の教員にAEDの使用方法などを指導できることですね。団員の中には、実際に人命救助した人もいますので、そういった話を聞くと嬉しいです。

活動を続けられる原動力はなんですか？

安全奉仕団の活動は、身近な人を助けられる知識や技術を得られます。災害発生時など、すぐに病院に行けない状況下でも、応急手当により困っている人を助けることができます。一人でも多くの人が救急法を学んで、いざという時に困っている人を助けられる仲間を増やしたい、その気持ちが原動力になっています。



安全奉仕団
(水上安全法指導員)
岩内 元男さん

●平成9年3月～
救急法指導員
●平成11年10月～
水上安全法指導員
●平成12年5月～
幼児安全法指導員

20年以上にわたり、活動を続けられる理由は何ですか？

赤十字の「困っている人を助けたい」という理念が自分のポリシーに合っているからだと思います。そんな思いがあったので、興味本位で救急法を受講し、その中で水上安全法を知ったんです。実は、水泳は学校の授業で習ったことがあるくらいで、はじめは全然ダメだったんですよ(笑)



そういった指導員は珍しいですよね！

そうですね。かなり苦労して資格をとりました。その分、講習を受けにきた受講生の中に水泳経験が少ない方がいた場合にはそういった受講生の気持ちに寄り添った的確なアドバイスができていかなと思います。水上安全法は、泳ぎに関して特別なスキルのある人が受けるものと思われがちですが、赤十字の水上安全法は水の事故防止を目的としていますので、多くの人に受けてもらいたいです。そして多くの方に事故防止のための知識を知ってもらい、例年発生している水難事故が減ることを願っています。

活動をしていて良かったことはありますか？

講習初日は救助技術を持ち合わせていなかった受講生が、講習が進むにつれ上達し、最終日にバッチリできるようになった姿を見ると嬉しいです。

あとは、交友関係が広がったことです。幅広い年代、様々な職種の人たちと同じ目的を持って何かを達成できるということはなかなか経験できることじゃないと思います。活動を通して色んな人たちと出会い、社会的な視野も広がりました。

千葉県赤十字看護奉仕団 一培ってきた看護の力を活かす一

結成年月日 | 昭和63年6月27日
団員数 | 35名(令和4年10月末時点)

看護師資格を持つメンバーで構成され、千葉県内で開催される様々な行事やイベントなどで、参加者の健康と安全を守るために臨時救護活動をしています。

〈具体例〉 市民花火大会や戦没者追悼式など行政主催行事・イベントでの臨時救護活動、青少年赤十字行事(研修会)の看護要員としての引率など



看護奉仕団 室谷 淑子さん、大木 正枝さん

!!どんな活動をしているのですか?

コロナ禍の現在は、千葉県内で開催される行事やイベントなどでの臨時救護活動をメインに行っています。急病人や負傷者を救護し、医師または救急隊員に引き継ぐまでの応急手当をしています。

また、有事の際には被災地で活動することもあります。東日本大震災の時には、岩手県(釜石市や大槌町)へ一週間ほど派遣され、仮設住宅をまわる等して被災者の健康チェックをしました。

!!どんな想いでいつも活動していますか?

「自分の知識や経験が誰かの役に立てるなら」という気持ちで、いつも活動しています。私たちは赤十字看護専門学校出身で赤十字に育ててもらったという気持ちが強く、赤十字病院の看護師になってからは、災害救護など赤十字の看護師だからこそ経験できたこともたくさんあったので、奉仕活動を通してその恩返しができればと思っています。

病院とは違い設備も資材も限られているなかでの活動なので、すべて自分たちで考えて対処しなくてはならないのですが、「自分たちにできることは何でもやろう」という姿勢で活動しています。



救護所で負傷者を手当する様子



活動への参加は、年に数回で十分です。活動は2人で行いますので、臨床の現場を離れてブランクのある方でも大丈夫。定期的に研修会を実施しています!

申込はこちら soshiki@chiba.jrc.or.jp

活動資金協力企業 (団体)のご紹介

日本赤十字社の活動は、皆様からお寄せいただく活動資金によって支えられています。赤十字のサポーターとして、活動を支えていただく「大きな力」となっています。ご協力、誠にありがとうございました。

※ 令和4年度第1四半期に千葉県支部へ直接10万円以上のご寄付をいただき、掲載をご了解いただいた法人(団体)のお名前をご紹介します。なお、千葉県支部ホームページにおいてもご紹介しています。(敬称略・五十音順)

株式会社 畔蒜工務店(山武郡横芝光町)
アール・ループ株式会社(柏市)
株式会社 伊賀屋(柏市)
株式会社 石井興業(山武郡芝山町)
石村建設株式会社(富津市)
市原通運株式会社(市原市)
株式会社 エスイテック(我孫子市)
エム・ティー・エム興産株式会社(市川市)
小澤土地家屋調査士事務所(柏市)
かすみメンテナンス株式会社(松戸市)
勝又自動車株式会社(千葉市中央区)
鎌ヶ谷巧業株式会社(鎌ヶ谷市)
京相製管株式会社(山武市)
近代住機株式会社(松戸市)
株式会社 倉持鉄工(野田市)
株式会社 現代建設(木更津市)

株式会社 坂戸工作所(千葉市花見川区)
株式会社 三栄(八千代市)
株式会社 サンタクロース(市原市)
シーエスジャパン株式会社(市原市)
株式会社 シーエヌティー(市原市)
有限会社 創和設備設計(千葉市中央区)
株式会社 太平洋クラブ(八千代市)
有限会社 高木電気工事(柏市)
千葉トヨペット株式会社(千葉市美浜区)
株式会社 鶴商メンテナンス工業(市原市)
T. T. C株式会社(鎌ヶ谷市)
株式会社 傳之丞(勝浦市)
株式会社 東総理工(銚子市)
有限会社 東洋軌道(千葉市美浜区)
トヨタカローラ千葉株式会社(千葉市美浜区)
株式会社 ナレッジワーカー(市原市)

日幸建設株式会社(千葉市中央区)
一般社団法人 日本自動車販売協会連合会
千葉県支部(千葉市美浜区)
合同会社 ハイテックコーポレーション
(印西市)
株式会社 パースヴィジョン(松戸市)
FEEL GREAT 株式会社(印西市)
株式会社 マツバラ千葉(千葉市花見川区)
みはらデンタルクリニック(佐倉市)
医療法人社団 明恵会
若宮中央医院皮膚科クリニック(市原市)
株式会社 山田総業(船橋市)
株式会社 横打(習志野市)
株式会社 リンクス・ビルド(船橋市)
有限会社 レオン(佐倉市)
ロビンスジャパン株式会社(八千代市)

いのちを守る赤十字の学習イベント 「赤十字キッズクロス」開催

8月5日(金)イオンモール幕張新都心にて、小学生を対象にした学習イベント「赤十字KIDS CROSS」を開催しました。

献血キャラクター「けんけつちゃん」がナビゲートする映像をとおして、身体の中を流れる血液のはたらきや献血の必要性を紹介したり、成田赤十字病院で実際に働いている小児科医の一日に密着した動画をとおして、医師の仕事内容や想いについて紹介しました。

また、防災ワークショップと題して、災害時等もしもの時に役立つ、新聞紙で作るスリッパの作り方やハンカチを使った応急手当の方法を体験してもらいました。



ハンカチを使った応急手当の様子

千葉県立四街道高等学校JRC同好会 「青少年赤十字創設100周年賞」を受賞

8月16日(火)・17日(水)に公益財団法人風に立つライオン基金が主催する「高校生ボランティア・アワード2022」の全国大会が開催され、地域大会で選ばれた約100校、500名の日々地道な奉仕活動を行っている全国の高校生が集結しました。

同大会に出場した、千葉県立四街道高等学校JRC同好会が「青少年赤十字創設100周年賞」として特別表彰されました！同校JRC同好会は、コロナ禍であってもできる活動を模索し、「非接触でもできるボランティア」として日ごろ活動している、地元駅の美化活動やコロナ禍の生活困窮者への精神面での支援について発表しました。



千葉県立四街道高等学校JRC同好会メンバー

発表の様子は
動画で
ご覧いただけます！



将来起こりうる大地震に備えて… 九都県市合同防災訓練に参加

9月1日(木)千葉市蘇我スポーツ公園で実施された「第43回九都県市合同防災訓練(千葉市会場)」に当支部、成田赤十字病院、千葉県赤十字血液センターの職員が参加しました。

本訓練は千葉市を震源とするマグニチュード7.3の千葉市直下地震が発生したという想定で行われ、85機関約800人が参加し、政府調査団として岸田首相も訓練を視察しました。

救出・救護訓練では、応急救護所を設置して、消防・自衛隊・DMAT等と成田赤十字病院の救護班が連携し、各訓練エリアから運び込まれる負傷者のトリアージと応急処置を行い、実践的な訓練となりました。

体験コーナーでは、訪れた市民の方々に、安全奉仕団による心肺蘇生・AED使い方や、千葉市赤十字地域奉仕団による災害時に役立つ新聞紙スリッパの作り方を体験いただきました。



負傷者を応急手当する救護班



応急救護所に負傷者を運ぶ支部職員



輸血用血液を緊急搬送する
血液センター職員



奉仕団による救急法体験コーナー



「赤十字NOW」読者アンケート

よりよい広報紙をお届けするため、皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください

